

## 令和4年度おだわら市民交流センターUMECO第三者評価

### ○ 各委員の評価点の平均点（5点満点）

拠点	相談・支援	協働支援	学習・体験	交流	情報発信	男女共同	国際
3.8 (4.4)	2.9 (3.8)	3.0 (3.9)	2.8 (3.5)	3.8 (3.8)	3.4 (3.6)	3.1 (3.4)	2.8 (3.1)

誰でも気軽に	シェアしながら	地域の課題を解決する
3.3 (3.6)	3.4 (3.6)	2.8 (3.3)

※（ ）内は前年度の評価点

## I 機能の達成状況

### (1) 6つの機能

#### ①拠点機能【3.8点】

- ・従来から実施しているUMECO企画展を継続するとともに、市民活動団体のニーズを捉えて開始したアクティブサロンを定例イベントとして確立した。また、団体登録の更新については、団体の利便性を高めるべくホームページ受付を行っており、当初の目標も達成できているので、引き続き登録団体数の増加等に努めていただきたい。
- ・地域活動や事業者の社会貢献活動、多様な主体の協働を取り上げるなど、UMECOで独自に企画したり、テーマ設定の切り口を変えたりするとともに、市民活動団体のニーズに即した事業実施に努めることで、拠点機能のさらなる充実を期待したい。
- ・UMECO企画展やアクティブサロンについて、実施した市民活動団体への参加者、寄附、連携の増加につながるような機会が提供できると良い。団体の活動にどう貢献できたか、改善点はなかったか等を具体的に検証していただきたい。

#### ②相談・支援機能【2.9点】

- ・スタッフの相談対応力の強化を全体的に図ることで、対応者の偏りに改善が見られた。ボランティア活動やNPO法人設立等に対応しており、評価できる。
- ・より充実した相談体制に向け、相談内容を詳細に分析して分野ごと、類型ごとに可視化した上で、今後の事業に活かせると良い。メールやSNS等でも受け付けていること、団体運営などより専門的な相談にも対応できることを周知し、相談窓口のPRを強化することも重要である。なお、前提としてスタッフが十分なスキルを有していることが必要であることは言うまでもなく、傾聴力を高めて相談者のニーズを引き出し、問題解決に寄り添える人材育成に努めていただきたい。
- ・資金面の支援については、市民活動団体のニーズをリサーチした上で、具体的な事業の検討を行っていただきたい。また、市民活動応援補助金については、交付事業に対する視察を行い、成果の展示や広報紙への掲載等により団体への支援に努めたことは評価できるが、申請受付時の対応については改善の余地がある。申請要件の確認等はもとより、団体の企画提案能力を育成することも大変重要な目的の一つであり、十分な受付対応に努めていただきたい。

### ③協働支援機能【3.0点】

- ・放課後児童クラブ等との連携が始まったことは、今後の学校・地域とのつながりを深めていく上で期待ができる。継続的にコーディネートに取り組むとともに、今後地域活動が活発化してくると予想されるため、事業のPRを強化し、さらなる連携先の開拓と協働事業の実現に努めていただきたい。
- ・商業施設と連携し、定期的に市民活動団体の発表の場を確保できたことは評価できる。今後はパフォーマンス以外の団体も関わるような、新たな協働先や手法の検討も進めていただきたい。また、既存の連携イベントについてもしっかりと振り返りを行い、事業の改善や継続の是非を検討する必要がある。
- ・協働には様々な形があるので、改定版の協働ガイドラインを活用し、協働が可能な団体を探して積極的に声掛け等を行うとともに、市民活動団体が協働のパートナーとなり得ることを多様な主体に対して発信し、新たな協働の創出に取り組んでいただきたい。

### ④学習・体験機能【2.8点】

- ・夏休みボランティア体験学習を感染症対策を講じ開催したことを評価する。若者の活動への参画に向けた意識醸成を図る意味で重要であるほか、シニアもターゲットにすることで市民活動団体の人材確保につながる可能性があると考ええる。
- ・一定数の事業を開催し、参加者を集めたことは評価できる。今後もアフターコロナの環境に合わせ、柔軟に事業を実施していただきたい。
- ・達成率が低い事業についてはその要因を分析するとともに、市民や団体の現状やニーズを把握し、必要な講座を実施していただきたい。特に、市民活動団体向けの専門性の高い講座について不足していると考えられる。それぞれのレベル感に応じた講座を充実させるとともに、実施後は必ず効果を検証し、UMECOで団体がステップアップできるというイメージを市民に持っていただけるよう努めていただきたい。

### ⑤交流・コーディネート機能【3.8点】

- ・UMECO祭りを感染症対策を講じながら実地開催するとともに、各種団体交流会も目標どおり実施できた点を評価する。
- ・交流手法の形式にこだわり過ぎることなく、様々な手法による交流の機会を積極的に提供するとともに、講演会やマッチングの要素を組み込むなど、より効果の高い手法を検討し、成果を検証しながらブラッシュアップしていただきたい。
- ・各主体のニーズを把握して主体的にコーディネートを行うとともに、交流会の定例化、オンラインと対面開催の使い分け・組み合わせなど工夫を凝らし、市民活動団体と地域、事業者等の多様な主体間の連携促進に努めていただきたい。

#### ⑥情報の集約・発信機能【3.4点】

- ・多様な媒体を通じて情報発信、PR活動に取り組んで来られた点を評価する。
- ・SNSを活用した双方向のPR、相談の多いボランティア情報に特化した冊子の作成など、よりタイムリーで、ターゲットを絞った効果的な情報発信に努めるとともに、実施後の効果検証もしっかりと行っていただきたい。
- ・ホームページについて、市民活動団体や一般市民がより活用しやすく、また情報を得やすくなるよう、情報の受け手を意識したコンテンツの整理やスマートフォン対応について、ぜひ検討していただきたい。

### (2) その他

#### ①男女共同参画【3.1点】

- ・目標値には至らなかったものの、UMECO企画展やアクティブサロンにおいて市民活動団体や行政と協働で啓発に取り組んだ。
- ・行政や関連団体との連携をさらに進めるとともに、UMECOが主体となって実施する事業の拡大に期待する。立地を活かした対面相談や、参加型イベントなども検討できると良い。

#### ②国際交流【2.8点】

- ・国際交流に係る企画展示を行ったほか、日本語教室を主催する登録団体の活動エリア利用において、他の市民活動団体にも配慮しながら、最大限活用いただけるよう調整を行った。
- ・今日的な国際理解を深めるテーマも取り入れながら、より多くの市民活動団体と連携したり、UMECOが主体となって事業を実施したりすることを期待する。また、外国籍市民の困難を解決すべく、日本語教室とのつながりをつくる支援を行えると良い。

## II コンセプトの達成状況

#### ①誰でも気軽に つながりを生み出すきっかけの場【3.3点】

- ・新しい生活様式を踏まえ、幅広い事業を工夫しながら継続して実施しており、市民活動に関するきっかけの場を提供した。全体的にニーズの調査とリソース配分の調整は必要と考えるが、アフターコロナにおける活動の再開・拡大も見据えながら継続していただきたい。
- ・市民活動のきっかけの場としての役割を意識し、団体と市民をつなげられるよう、また市民を惹きつけられるような事業・対応に努めていただきたい。
- ・市民活動に興味を持ち、活動を始めるきっかけとなる機会を拡大するとともに、団体の連携の幅を広げられるよう、若者、市民活動に無関心な市民、事業者、地域に対して市民活動のPRや企画検討を行っていただきたい。

## ②シェアしながら それぞれの思いが繋がる行動の場【3.4点】

- ・従来は県との共催であったパートナーシップミーティングを単独でも継続して実施し、多様な主体の連携促進に努めた。さらに、パートナーシップミーティング、団体交流会、環境フェスタについては、共通のテーマのもと、機会を逃さずつながりの機会を連続的に関連付けて創出したことを評価する。こうした実績を積み重ねながら、さらなる協働の促進や団体の発展に向け、交流会等をより充実させていただきたい。
- ・情報発信の媒体や内容について精査するとともに、単なる情報提供にとどまらない事業展開を期待する。ホームページをより活用しやすいものに見直す、他自治体の先進事例を紹介する、市内外の補助制度をさらに周知した上で活用拡大に向け関連事業を展開する、等も考えられる。
- ・既存の登録団体のみならず、NPO法人や新たな団体、事業者、学校等への働き掛けに努めるとともに、テーマ性を持った企画や各主体の強みを生かした取組を提案するなど、協働事業が具現化するための仲介役、コーディネート役としての活躍に期待する。

## ③地域の課題を解決する 行動を社会貢献につなげる実現の場【2.8点】

- ・地域や学校とのつながりの面で市民活動団体が放課後児童クラブとの関係性を持ったことについて、大変意義があると考えられる。また、商業施設と連携し、イベントを継続していることも評価できる。
- ・市民活動団体と地域、事業者等との連携を促進できるよう、各主体との信頼関係を丁寧に構築しながら、より幅広い分野の協働事例の収集・発信や多様な主体の連携の仕組みづくりに取り組み、地域社会の課題解決に向けて活動する団体を後押ししていただきたい。
- ・課題把握の調査については、全登録団体向けのもの、事業参加者向けのもの、協働促進のための多様な主体向けのものなどが考えられるが、いずれも市民活動団体を支援する上で大変重要である。必要な情報を積極的に収集・分析し、ニーズを適切に把握して事業に反映させていただきたい。

## III まとめ

新しい生活様式を踏まえながらも、夏休みボランティア体験学習やUMECO祭りなど幅広い事業を継続して実施しており、市民活動に関するきっかけの場として評価できる。

また、パートナーシップミーティングから生じたつながりを団体交流会、環境フェスタと、機会を捉えて発展させていったことなど、協働を促進する中間支援組織としての意志が認められる。

一方で、市民活動団体がステップアップできるような専門性のある講座や、若者・事業者・地域といった多様な主体の連携の促進、より伝わりやすく活用されやすい情報発信については、注力の余地があると考えられる。各主体のニーズの把握や、各事業の効果の検証をしつかりと行いながら、より主体的、積極的な事業展開を期待する。

なお、中間支援組織において、スタッフの相談スキル向上は大変重要な事項である。日ごろの相談対応においては相談者のニーズを引き出せるよう、市民活動応援補助金の受付対応においては申請者の企画提案能力を伸ばせるよう、今後も研鑽に努めていただきたい。